

病理 # 米国 # 臨床留学

04/03/2022

N Program 32 期：末光 大和

- 03/18/2022

Match Day, マウントサイナイ病院(MS)病理レジデントに決定 ¹⁾

- 03/14/2022

Match Week, SOAP は not eligible との朗報 ²⁾



Congratulations, you have matched!

Because you are fully matched, you are not eligible to participate in the Supplemental Offer and Acceptance Program (SOAP), and you will not have access to the List of Unfilled Programs. Information on where you matched will be available in the Registration, Ranking, and Results (RRR) system and sent by email on Friday, March 18, 2022, at 12:05 PM Eastern Time.

- 03/01/2022

MS プログラムディレクター(PD)から選考に際し好意的メッセージを拝受

- 02/17/2022

MS の PD に感謝とプログラムへの興味を伝える ³⁾

- 02/12/2022

MSWM(West/Morningside)の PD より選考に際し好意的メッセージを拝受

- 02/01/2022

Rank Order List においてプログラム希望順位を提出

- 01/25/2022

MS 面接②(0 時), 1 名の指導医との追加インタビューを Zoom で行う(23 時)

- 01/11/2022

MS 面接①(23-2 時)⁴⁾, 他に 2 名の AMG 応募者あり

PD と, DO で副 PD のスタッフのそれぞれと面接⁵⁾

残る 1 名の PhD スタッフは手違いで面接に現れず, 後日再度調整に

- 01/07/2022

MedEdits Mock Interview③⁶⁾



- 01/01/2022

MSWM の PD にお礼を兼ねて新年の挨拶

- 12/16/2022

MS より MyERAS 上で面接の申し出

- 12/15/2021

MSWM 面接(0-2 時)⁷⁾, 朝に MedEdits Mock Interview②, 評価は◎

面接は 4 人の指導医それぞれと対話, 他に 3 名の AMG 応募者あり

- 12/14/2021

MedEdits Mock Interview①, バイトらしきレジデント AMG と想定問答,
評価は○

- 12/10/2021

AmeriClerkships Medical Society Mock Interview②, 塾長からの評価△



- 12/07/2021

AmeriClerkships Medical Society Mock Interview①, 塾長からの評価△

- 11/18/2021

MSMW より MyERAS 上で面接の申し出

- 11/09/2021

Brigham & Women's 病院から MyERAS 上で面接不可の通達 ⁸⁾⁹⁾

- 11/03/2021

MyERAS 上で Application 記載内容を確定

- 11/01/2021

Medical School Transcript 提出

- 10/26/2021

Medical School Performance Evaluation(MSPE)提出

- 10/19/2021

所属上長からの Letter of Recommendation (LoR)提出, 3 通揃う

- 10/07/2021

MSPE 必要書類が全て揃い卒業大学に最終依頼,

MS と Memorial Sloan Kettering Cancer Center(MSKCC)勤務歴のある

国内病理医メンターからの LoR 提出

- 10/06/2021

Massachusetts General Hospital (MGH)の日本人病理医メンターからの LoR
提出

- 09/25/2021

N Program 選考会

- 09/15/2021

Personal Statement を MyERAS へ提出

- 09/08/2021

N Program 予備面談

- 07/31/2021

西元先生にメールで 2022 年度 N Program 応募したい旨をご連絡

[NOTE]

- 1) MS 病理にマッチしたのは 4 名の AMG と 2 名の IMG でした; AMG の出身校はミネソタ, ヴァージニア, オハイオ(ケース・ウェスタン・リザーブ大学)など, 他の IMG の出身校はインスタンブール
- 2) この段階ではマッチ先は不詳; 完全なマッチで SOAP を必要としないか, 部分マッチまたはアンマッチで SOAP の対象かのみが判明
- 3) YouTube (Med School Tutors など)の緒チャンネルでは, 面接後適当な間を置いて Letter of Intent(LOI)を第一志望には送るよう推奨しており, 実際一部の PD は面接の際に興味があるなら LOI を送ってくれると分かりやすいと述べるという話も聞きました
- 4) どの指導医からも難しくない基本的な質問が殆どで, 寧ろこちらから指導医への質問を求められる場面も多かった印象
- 5) 指導医との面接が全て終了したのち現役レジデントとの時間があり, MS では 1:1 の個別対話時間が, MSWM では集団での質疑応答が設けられました
- 6) AmeriClerkships Medical Society と MedEdits を比べると前者は IMG で米国キャリアの塾長からのやや講義調の個別指導, 後者は現役(AMG)レジデントとの双方向な個別指導, というそれぞれの印象
- 7) 面接にかんしてはどちらも圧迫感はなく, 想定していたよりも平和な時間でした
- 8) 応募総数は 20 プログラムのうち MS と MSWM の 2 プログラムのみから面接の申し出を頂き, 残る 18 プログラムは MyERAS で面接不可の通達が来る, 若しくは音沙汰なしでした

- 9) 一般論的に、面接可否を伝えて来ないプログラムにも Letter of Interest(LOI) としてメールで PD などに簡潔に興味を伝えることで、面接に漕ぎ着け得ることが言われています

[COMMENT]

思えば計画性に乏しい来し方でした。それでも最終的に MS 病理レジデンシーという望外のスタート地点に私が立ったのは、西元先生は勿論のこと、MS の PD に私を紹介頂いた N Program 先輩の MS 病理医先生、また圧倒的なご実績により MS と MSWM の両院で盤石な後ろ盾となってくださった N Program 初代 MS 病理レジデント先生をはじめとする、諸先輩方の存在が前提です。本当に感謝の念が尽きません。

偶然に、後期研修の一環で短期間ながらご指導頂く僥倖を得たのが、N Program を通じ MS と MSKCC にて勤務された前述の先生でした。当時の私は見聞が狭く、卒後早期に病理レジデンシーから渡米することはあまりやられていないに違いないと思い込んでいました。しかし、まさにそのキャリアを、のみならず圧倒的に高い質で実現させ、果ては現在も本邦でご専門分野の最先端にいるその先生を知ったときには、学生時代からの渡米志向が萎縮する急性期反応も経験しました。

しかし同時に、同じ出会いを通じ N Program で過去複数名が病理医として渡米されたことを知るに至りました。それまでは多くの例に漏れず、N Program は内科留学のみと独り合点していた私でしたが、実際には小児科や外科等の先生もお

られることはご周知の通りです。MS 系列の病院での病理レジデンシーは、疫学に大きな影響を受ける病理の性質上、マンハッタンの多様性の直中にあるという点で理想的で、かつ診断業務の大部分を既存のスライドガラス標本からスクリーン上のヴァーチャルスライド標本へ移行したデジタル病理学の最先端環境に身を置くという点でも魅力的です。以上の理由で現状、米国キャリアのスタートとしての MS 病理レジデンシーに期待と妄想を逞うする毎日です。

従って、USMLE 受験と ECFMG Certificate 取得にかんする知識は一通りあり、かつ病理医として米国への臨床留学を考えている他の先生を想定して、N Program でその実現が可能ということを結論に据え、このエッセイを認めました。私自身は、米国で個体数が少ない中情報源としてお役に立てるよう、また他科の先生方に対しても専門性をいかし一助となれるよう、上を目指して励んでいく所存です。